

## 質問がたくさん出る状態をつくるには？

先日、ある方の講演を聞きにいったときのことです。講演を聞いたあと、司会の方が「大変貴重な講演ありがとうございます。では、フロアの皆さんからご質問をいただきたいと思います。質問のある方は拳手をしてください」と言って、「しーん」となった場面に出くわしました。はい。お察しのとおり、司会者にとって、これは試練の時間です。「誰か一つでも質問してほしい！」と思って会場を見るけれど、当てられないように、みんなが下を向いている……。 「質問ありませんか？」と再び問いかけるも反応がなく、結局、誰からも質問が出ないと判断した司会者は、「皆さん、深く納得されたようで、大変素晴らしい講演でした」となんとか締めくくって、会が終わりました。

読者の皆さんも学校の外からゲスト講師を招いてお話ししてもらい、司会をしたことがあるかもしれません。ご自身が講師になった経験もあるかもしれませんが、日々の授業では毎日のようにお話しになっているわけです。また、講演を聞いていて「質問しやすいな（あるいは質問しづらいな）」と感じたこともあると思います。

そのような経験を踏まえて、考えてみてください。講演や講義、授業を聞いたあとに、学習者から活発に質問が出るために、どのような工夫をしていますか？ あるいは、どんな工夫をすれば、一人一人の学習者から質問がたくさん出ると思いますか？ 次の空白に、思いついたことを書いてみましょう。

学習者から質問が活発に出るために、どのような工夫をしようとしようか？

先日、私が主催した「本番で力を発揮する方法」というテーマの勉強会では、遠方から講師をお招きし、講演していただきました。その講師は、キックボクシングの元チャンピオンで、今はジムを経営なさっています。普段から同じテーマの講演をよくしているのですが、「こんなにたくさん質問が出るとは、驚きました！」と言って帰られました。

私がどのような工夫をしているのか、簡単に紹介したいと思います。講座の司会をするときだけでなく、普段の会議や研修の場面などに活かせるヒントも拾ってもらえたらうれしいです。